

妙安寺だより 363

本年、古希（70歳）を迎え、お盆過ぎにネパールのポカラ・ルンビニ・チトワン・カトマンズを旅行することになりました。その前に体調を整えなくてはと、病院通いに明け暮れました。

1月に毎月通っている神経科で「血液検査をしてみましましょうか」ということで検査。その結果、系の数値が通常の1.5倍もあり、2月に再度検査、数値は変わらず。3月に九州医療センターの血液内科を紹介され、血液検査（初めて8本も採血されました）と胸部レントゲンを実施。

蛋白質系の数値は変わらず。胸に影があるというので、4月に胸のCTとにより、髄液の検査。その結果、と判断され、骨髄には大きな異常はありませんでした。呼吸器内科での診察へ。

5月には、白内障の手術、開山可観院日延上人の350遠忌法要の行事を済ませ、6月に検査入院。肺腫瘍の組織の一部を検査のため採取、退院後にはPET-CT（放射性薬剤を飲用）検査。

結果は肺癌と診断（病名・右肺癌）。その入り口付近のリンパ節に異常が認められ、7月に呼吸器外科にて、検査のために、入院・手術、幸いにも転移は見られないということでした。

8月中旬に、右肺下葉切除の手術を受ける予定でしたが、お盆過ぎに、ネパール・カトマンズ旅行に初めて孫が参加するので、手術の日を何とか、9月の初めに変更して貰いました。

ネパール周遊 ポカラ・ルンビニ・チトワン・カトマンズの旅(1)

今回の旅行参加者は、岡部さんとお孫、住職夫妻と二人の孫、ツアーリーダーの牛島氏の7名。

8月19日午前9時半、福岡空港国際線ターミナルの出発ロビーに集合。二人の孫は初の海外旅行で親元を離れるために、緊張と戸惑い顔。牛島氏が「お上人車椅子を借りますでしょうか」「いやあ、歩きますよ」と舌の根が乾かぬ間に、今回の旅行会社のさんが「車椅子をどうぞ」ということで、無下に断ることもできず、恥ずかしい気もありましたが車椅子にて空港内を行動することになりました。

これが今回の旅行で、我々のグループにとって、大変をってくれることになりました。

まずは空港内の職員の手によって、飛行機に預けるトランクの荷物検査、保安検査での機内持ち込みの手荷物検査、出国審査もすべて優先、さらに機内への搭乗も優先的に案内され、午前11時35分発のタイ国際航空にてバンコクへ。（所要時間・5時間20分）現地時間14時55分無事バンコクに到着。タイ入国審査の場所まで長いこと（約2キ）。この時ほど車椅子でよかったなあと思いました。